

線路は続くよ、どこまでも。

# ローカル列車、 出発進行！

岐阜県には4つのローカル線がある。

長良川鉄道、樽見鉄道、

養老鉄道、明知鉄道がそれだ。

そこに暮らす人々の足として

あるいは、旅する者たちを乗せて

まちを、橋梁を、トンネルを。

ガタンゴトンと心地良い音を響かせて

列車は目前に伸びる線路をひた走る。

運転士の快活な声が聞こえる。

「発車、オーライ！」

小さな切符と鞆を片手に

いざ行かん、ローカル列車の旅へ。





ローカル列車、出発進行!

# 長良川鉄道

美濃加茂市から富加町、関市、美濃市、郡上市へと10の橋梁を渡り、12のトンネルを抜けて38駅を結ぶ。そのローカル線は、列車旅の魅力に満ちていた。



## ガ

タンゴトンと小気味良い走行音が響く。車両先頭の貫通扉から、流れる景色と、ひたすら眼前に伸びる線路を飽きることなく眺める。毎日上下線各一本ずつ運行される「ゆらゆり眺めて清流列車」。景観の良いポイントで徐行運転を行う観光客に好評の列車だ。大正12年に「美濃太田」-「美濃町」間が開業、昭和9年に「北濃」までの全線が開通した国鉄越美南線。国鉄再建法による廃線を受け、昭和61年に第三セクターとして誕生したのが「長良川鉄道」である。地域の足という役割

はもちろん、沿線5市町を訪れる観光客からの需要も高く、イベント列車や独自のツアーを企画して利用者の増加を図りながら、路線存続への奮闘を続けている。美濃市の「湯の洞温泉口」から終点「北濃」まで、車窓の景色は実に変化に富む。滔々と流れる長良川を右に左に望みながら、9つの橋梁を渡り、大小11のトンネルをくぐり、集落や畑や樹林、溪谷の中を抜ける。「左手に富士山が見えたら良いのですが、残念ながら見えませんが、今日は白山連峰がきれいに見えます」。ユーモア

**DATA**

**長良川鉄道株式会社**

路線：美濃太田(美濃加茂市)ー北濃(郡上市)  
 全長：72.1キロメートル  
 運賃：美濃太田ー北濃 大人1,690円(税込)  
 「紅葉船乗車証」(10~11月限定・要予約)  
 大人3,800円(税込)  
 問い合わせ：TEL. 0575-23-3921  
<http://www.nagatetsu.co.jp/>



アテンド 船戸由香さん

車窓からの眺めで個人的なおすすめは「深戸」から「相生」へ向かい、第五長良川橋梁を渡ると左手に見える亀尾島川。岩場に子どもや釣り人が見えたりして、なんとなく好きな風景です。

## 沿線立ち寄りどころ



**日本まん真ん中温泉 子宝の湯**  
 郡上市美並町大原 2709  
 ☎ 10:00~21:00 (受付は20:30まで)  
 🔥 火曜日(祝日の場合は翌日)・12月30日~1月1日  
 大人500円(税込) ※長良川鉄道降車客は入湯料50円のみ  
 ☎ 0575-79-4126



**郡上八幡城**  
 郡上市八幡町柳町一の平  
 ☎ 9:00~17:00 ※季節により異なる  
 🔥 12月20日~1月10日 大人310円(税込)  
 ☎ (一財)郡上八幡産業振興公社 ☎ 0575-67-1819



**慈恩禅寺 莖草園**  
 郡上市八幡町島谷 339  
 ☎ 9:00~17:00 不定休  
 大人300円(税込) 15台  
 ☎ 0575-65-2711

全国でも珍しい駅舎に併設する温泉施設。列車を降りたホームがそのまま入り口ということもあり、昨年は約12万人の入湯者のおよそ1割が長良川鉄道の降車客とか。泉質はアルカリ性単純温泉。長良川のせせらぎを間近に感じる露天風呂で旅の疲れをゆりりと癒やそう。

戦国時代末期に遠藤盛数が砦を築いたのが始まり。明治4年の廃城までの歴代城主は遠藤氏、稲葉氏、井上氏、金森氏、青山氏。現在の木造4層5階建の白亜の天守閣は昭和8年に再建されたもの。11月1日~24日は「郡上八幡城下町もみじまつり」を開催。ライトアップも行われる。

江戸時代初期に建立された臨済宗妙心寺派の禅宗寺院。奥庭の「莖草園」は元来の景観を生かして造られた池泉回遊式庭園。書院から眺める庭園の美しさは息をのむほど。新緑から深緑への移り変わり、池を染める紅葉、深々と雪が降る冬景色。四季折々の景観を愛でたい。

たっぷりのアナウンスが聞こえ、座席から和やかな笑い声が起こる。声の主は運転士歴20年の大野敏明さん。安全で快適な運転が第一と心得ながらも、乗客に喜んでもらえたらと始めた愉快なアナウンス。台詞はすべて自前、車内の顔ぶれを見ながらマイクを握る。「地域の方にとって列車は家と同じ。学生や会社員の方には、朝は、行つたらっしやい、夜は、お帰りのなさい」と必ず声を掛けます。地域を繋

ぐローカル線。一両編成のワンマン列車は、運転士と乗客、お互いの顔が見える人情列車でもあった。昭和4年に建てられた木造駅舎や渡り廊下が残る「郡上八幡」で下車。年間10万人以上の観光客が訪れる城下町を散策する。慈恩禅寺の莖草園はぜひ訪れたい名勝。深紅の毛氈に座して眺める庭園。岩肌を流れる滝の音、風の気配。穏やかな自然に抱かれ、時が過ぎるのを忘れる。11月

初旬の紅葉の美しさは、いかにばかりであろうか。再び長良川鉄道に揺られて終着駅「北濃」へ。越美南線は福井県の越美北線とを繋ぐ越美線として着工されたが、この駅から先に線路が延びることはなかった。草叢で途切れたレールが旅の終わりを告げる。きつといつかまた、ここを訪れるであろう朗らかな予感を胸に、夕暮れの赤い列車に乗り込んだ。



ローカル列車、出発進行!

# 樽見鉄道

住民が渴求し、幾星霜を経て全線が開通した樽見鉄道。地域の足となり、また、自らが観光資源となり、その鉄道を絶やさぬために、レールバスは走り続ける。

**大** 垣市から本巣市根尾までを南北に走る樽見鉄道は、周辺村落の鉄道への「渴望」から生まれた。大正7年、日本巣郡の有志らが鉄道敷設の陳情運動を開始。昭和31年に国鉄樽見線「大垣」―「谷汲口」間が開業し、2年後、「美濃神海」まで開通。しかし、国鉄再建法により廃線が決まる。昭和59年、第三セクターとして「樽見鉄道」が開業し、平成元年の春、「樽見」まで全線が開通した。

発に尽力し、鉄道誘致にも貢献した宮脇留之助氏の顕彰像が立つ。「強い意志を持ち、滅私奉公で根尾村の発展を願った人だったのでしよう」と曾孫の宮脇治道さん。曾祖父らの陳情から71年もの歳月を経て迎えた悲願の日。樽見駅の開通式には、留之助氏の遺影を手にした父・明道さんとともに参列したという。樽見鉄道の列車は現在、すべてレールバスと呼ばれる気動車だ。JR大垣駅の6番線から出発し、「木知原」を過ぎた辺りで車窓の眺めは一変

する。樽や杉が茂る林を抜ける深い緑を湛えた根尾川を渡る。「鍋原、オーライ、発車!」と運転士の声。突然、そこに言葉が失う眺望が現れた。第七根尾川橋梁。鉄橋の中を真っ直ぐに伸びる線路。その先で口を開けたトンネルの奥にも、小さな橋とトンネルが続く。険しい渓谷の中で、自然を凌駕するかの如き迫力。それは人々の積年の渴望が勝ち得た光景だった。

樽見鉄道のトリアを2つ。路線の全長は34.5キロメートルですが、これは山手線一周の距離と全く同じ。そして、車両番号の「ハイモ」は「ハイスピードモーターカー」の略なんですよ。



運輸部企画営業課 藤田敏明さん

## DATA

### 樽見鉄道株式会社

路線：大垣（大垣市）―樽見（本巣市）  
 全長：34.5キロメートル  
 運賃：大垣―樽見 大人920円（税込）  
 「うすずみ温泉入浴券&1日フリー乗車券」  
 大人2,200円（税込）  
 問い合わせ：TEL. 0581-34-8039  
<http://tarumi-railway.com/>



分を發揮して営業にも奔走。現在は取締役運輸部長として多忙を極める。今夏、3年程前に持ち込まれた企画がいに実現した。劇団シアターキューブリックが主催する「樽見鉄道スリーナイン」。観客を乗せた列車を舞台上に、役者が途中の駅で乗降しながらオリジナルストーリーを演じる。演劇列車だ。「本巣駅以北の運行は90分に1本と少ない。だからこそ、柔軟にダイヤが組める。移りゆく車

窓も良いスパイスになる。欠点を長所に変え、この鉄道自体を観光資源にすることで、地域の足も守れる」。4日間の公演チケットは完売。企画は大好評を博した。「全8公演の乗客は240名ですが、その数字以上の効果があったと思います。僕自身、列車の新しい可能性を感じました」と入社2年目、運輸部企画営業課の藤田敏明さん。いつか再び演劇列車を走らせたい、と控えめに微笑んだ。

赤字路線からのスタート。沿線5市町の援助を受け、徹底した経費や人件費の削減、企画営業による収益増で黒字に転換した樽見鉄道。社員35名が一人何役をもこなし、その鉄路を守っている。「この鉄道は存在自体が地域の文化やからね」。今村さんが言った。「バスに代替することもできた。それでも鉄道を作ったんです。先代らに敬意を表して、僕らが樽見鉄道を守っていかないと」。

## 沿線立ち寄りどころ

### 樽見

### 大栄ストア

本巣市根尾板所 643-4-2  
 ☎ 8:00~18:00  
 年中無休 あり  
 ☎ 0581-38-3166・2030

塩鯖を二杯酢に漬け、酢飯と合わせて専用木箱で押し寿司にするのが、根尾地域の家庭に伝わる「鯖寿司」。この店では跡路美千子さんが3日間かけて作る鯖寿司を販売。肉厚で程良く甘い鯖と一粒一粒に旨みが詰まった自家栽培コシヒカリの調和が見事な、唯一無二の絶品だ。

鯖寿司(1パック10切)850円(税込)  
 ※9月下旬から翌6月末頃まで販売。事前に電話予約を

### うすずみ温泉 四季彩館

本巣市根尾門脇 422  
 ☎ 10:00~20:00 (受付は19:00まで)  
 月曜日(祝日の場合は翌日) ☎ 大人850円(税込)  
 大型駐車場あり ☎ 0581-38-3678

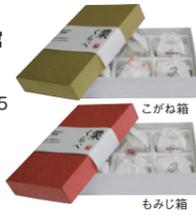
雄大な自然を眺める露天風呂のほか、桜花の形をした風呂や五右衛門風呂が人気の温泉施設。泉質はナトリウム塩化物泉。海水に似た成分で、神経痛や関節痛などに効果があるとされる。「樽見」からは列車の発着時間に合わせて無料シャトルバスが運行され、アクセスも便利。



沿線立ち寄りどころ

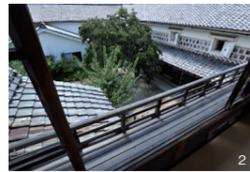


**恵那市観光物産館 えなてらす**  
恵那市大井町286-25  
☎ 9:00~18:00  
🗓 年末年始  
☎ 0573-25-4058



恵那市全域の名産品がそろった物産館。秋の人気商品といえば、2箱で10種類の栗きんとんが味わえる「栗くらべ」。恵那市近郊の和菓子屋10店舗から、毎朝できたての味が届く。それぞれの違いを食べ比べ、最良を探すのも面白い。

「栗くらべ」はえなてらすのみでの販売(イベント出店時は除く)。こがね箱・もみじ箱各1,400円(税込) ※数量限定



**勝川家**

恵那市岩村町317  
☎ 9:30~16:30  
(12~2月は10:00~16:00)  
🗓 火曜日・年末年始 無料  
📍 恵那市観光協会岩村支部  
☎ 0573-43-3231



広大な山林と農地を所有し、江戸末期に台頭した商家の「勝川家」。現在は恵那市指定文化財として主屋、離れ、3棟の土蔵を無料公開している。昭和初期に檜丸太の梁、屋久杉の天井板、皮付赤松の床柱など、良材を駆使して建てられた書院風の離れは、城下町の栄耀を今に伝えている。

1. 離れの建築美には目を見張る 2. 娘部屋の2階から眺める(いらか)の波は一見の価値あり 3. 周り廊下は岩村城郭掘り下げの檜(けやき)材を使用



**あまから**

恵那市大井町295-12  
☎ 9:30~18:30  
🗓 月曜日(祝日の場合は翌日)  
☎ 0573-25-3029



昭和34年創業の五平餅屋。熟練の握り方で、絶妙に米粒の食感を残したご飯は団子型に。初代から受け継いだ自家製の甘辛いたれは、国産のくるみの甘さ、香り高いごまの風味がふわりと口に広がる。地域に根付く食文化の奥深さを堪能したい。

1.「この郷土料理を全国にもっと広めたい」と3代目の西尾大介さん 2.この地域では五平餅が主食にもなるそう。五平餅1串 100円、五平餅定食 900円(いずれも税込)



**岩村醸造株式会社**

恵那市岩村町342  
☎ 9:00~20:00  
(酒蔵見学は9:30~17:00)  
🗓 元日のみ  
☎ 0573-43-2029



創業227年を数える老舗の酒蔵。「玲瓏馥郁」を信条とし、岐阜県産米と天然の地下水で「ここできしか造れない酒」を醸し続ける。「あなのほまれ」、「幻の城」に並ぶ代表銘柄「女城主」の特別純米酒は、吟醸酒にも負けない芳醇な香りと辛口ながら上品な甘みが広がり、飲み飽きない銘酒。

1. 女城主 特別純米酒(720ml) 1,450円、あなのほまれ ひや原酒(720ml) 1,400円(いずれも税込) 2. 築230年の酒蔵は無料で見学ができ、仕込水も飲める



**日本大正村資料館**

恵那市明智町1860-7  
☎ 9:00~17:00  
(12月15日~2月末は10:00~16:00)  
🗓 年末年始  
📍 大人 300円  
☎ 0573-54-3947



今も人々が生活を営む町の中に、蚕糸産業で栄えた大正時代の建物が点在する「日本大正村」。明智町の住民が主体となって作り上げたこの村のシンボリック的存在が「日本大正村資料館」だ。銀行の蔵を改装し、大正文化を象徴する蓄音機や新聞など、さまざまな資料を展示している。

1. 築105年の木造百畳敷の建物を活用 2. 蓄音機に使う針を入れるケース。現代でも色褪せないデザイン性の高さがうかがえる



**岩角食堂**

恵那市明智町1265-4  
☎ 11:00~22:00  
🗓 火曜日  
☎ 0573-54-2545



明智町で一番古いとされる、明治から続く大衆食堂。「昔、こゝろは個性豊かな人ばかりだったね」と4代目の西尾淳子さん。御歳72才の今も元気に厨房に立ち、店を切り盛りする。足繁く訪れるご近所さんとのやりとりには、大正時代に戻ったかのような温かな関係が垣間見える。

1. 歴史を刻んだ佇まいは開店当時のまま 2. 西尾さんの祖母が名古屋で教わってきたという味を守り続けている。中華そば 580円(税込)



ローカル列車、出発進行!

**明知鉄道**

鉄道員と住民の惜しみない愛情に守られる鉄道が、東濃地方の歴史ある町々と風光明媚な自然の中を走る。のどかな旅情に浸りつつ、ふらり途中下車の旅を。

**昭** 和60年に国鉄明知線を引き継ぎ、第三セクターとして開業した「明知鉄道」。「恵那」を起点に、中津川市阿木を経由して終着の「明智」まで、美しい田園風景の中を走る。沿線には、中山道大井宿として栄えた大井町、城下町の面影が残る岩村町、日本大正村で知られる明智町があり、歴史が息づく町並みが旅情を誘う。

明知鉄道ではこうした豊かな観光資源を生かしつつ、存続をかけ、利用者増を狙うイベント列車を次々と展開。昭和62年には全国でも「グルメ列車」の先駆けとなった「ヘルシートレイン」の運行をスタート。国内生産量日本一を誇る山岡町の細寒天を使った多彩な料理が楽しめる。この列車は予約が殺到するほど大評判に。名物となったグルメ列車は、現在10種類にまで増えている。

さらに、収益増加のため、個人でも利用できる「つり革広告」や、列車愛称命名権を販売する「ネーミングライツ」なども実施。実はこれらの企画は地域住民からの提案で始まったという。そして、この企画の実現に必要な可



青々とした田園の中を列車が走る景色が好きです。地元の方が自主的に草刈りをしてくださるおかげで、線路脇もとってもきれいなんです。地域の皆さんの支えがあってこそ明知鉄道ですね。

**DATA**

**明知鉄道株式会社**

路線：恵那(恵那市)―明智(明智町)  
全長：25.1キロメートル  
運賃：恵那―明智 大人690円(税込)  
「明知鉄道全線フリーきっぷ」大人1,380円(税込)  
問い合わせ：TEL. 0573-54-4101  
<http://www.aketetsu.co.jp/>

